

計画の内容を拡充したもの

分類	項目	ご意見の内容	ご意見に対する考え方
前期実行計画の検証	—	学校給食の残渣リサイクル率の向上 目標値を100%ではなく、80%とした根拠を教えてください。また、環境とは少し離れるが、残渣が出ないように指導していくことのほうが重要であると思う。	学校給食の残渣リサイクルについては、家畜の飼料として給食残渣の回収を業者委託し推進しています。しかし、北部地域の調理場においては、残渣量が少なく、運搬費がかさむことから、回収対象から外したため、目標値を100%にしています。現在、北部地域の調理場の給食残渣については、堆肥化する方向で考えており、中期実行計画においては、目標値を100%としています。また、食べ残しについては、栄養士を中心に学校現場で指導を行っています。ご指摘のとおり、残渣が出ないようにすることが重要ですので、今後とも、食べ残し等の削減にも努めていきます。
産業力強化・雇用対策	農林業・漁業の担い手の確保・育成	農業・漁業のほかに、林業の担い手を育てる必要があるのでは。宇部市の林や森林の保全に対する宇部市の取組が鈍いような気がする。	林業の担い手の育成については、研修に取り組みされる事業者への支援を行います。また、健全な森林の保全と間伐材等の活用を促進するため、作業道の整備や造林等の取り組みを拡大していきます。
低炭素まちづくり	環境ビジネスの創出	環境ビジネスとして、山口大学・宇部高専他の学と産の技術活用を強調する。	「取組の目標」にある「産官学民の連携」という表現を、より具体的なものに改めます。
低炭素まちづくり	協働による環境にやさしいまちづくり	「里地里山環境保全事業」 竹林の整備については、里地里山環境保全事業に紐づくのだと思うが、取組の目標として明文化していただきたい。「林」の部分が全体として見えない計画になっている。 ※我が家では【企業名】に竹林整備していただいています。このような取組を行政力で面的に拡げて、地域資源が荒廃しないようにしてほしい。	竹林の整備については、「保全林管理事業」として掲載し、整備目標を15haとしています。
低炭素まちづくり	家庭における環境活動の促進	中期実行計画（概要）が全体的に抽象的に作られている。 それぞれの課題や言葉の意味について具体的に示してほしい。 ・宇部市内CO2排出量	『家庭における環境活動の促進』中の記述、「基準年度と比べると大幅に増加」→「基準年度と比べると30%以上増加」に修正します。
低炭素まちづくり	生活交通の活性化・再生	「生活交通の活性化・再生」について 宇部市営バスのあり方として、高齢者や学生・通勤などのためだけでなく、宇部市の経済効果を生み出すため、中心市街地の活性化という目的を加えるべきです。せっかく宇部市が宇部市民の税金で運営しているので「福祉」だけでなく、「経済効果」への役割も果たすべきです。	宇部市営バスを含む公共交通について、移動に不自由している高齢者や学生等の移動を確保するという目的に、これからのまちづくりのための手段として位置付け、「生活交通の活性化・再生」に中心市街地の活性化の観点も取り入れ、事業を実施していきます。
低炭素まちづくり	生活交通の活性化・再生	バスを利用して中心市街地に出てほしい。 「移動手段のための公共交通」に「まちの活性化のための公共交通」という視点をプラスし、バスをまちづくりにおいて積極的に活用していく姿勢が大事だと思う。	宇部市営バスを含む公共交通について、移動に不自由している高齢者や学生等の移動を確保するという目的に、これからのまちづくりのための手段として位置付け、「生活交通の活性化・再生」に中心市街地の活性化の観点も取り入れ、事業を実施していきます。
低炭素まちづくり	生活交通の活性化・再生	まちづくりは経済の活性化に寄与することを明文化してほしい。 経済的なものを生み出そうという考えがないのではと感じる。 市営バスを使った取組を中期実行計画にぜひ入れていただきたい。 コアなところ以外でも市民が広く使えるような方向性を希望する。	また、路線の見直しに当たっては、地域の特性を勘案しながら取り組んでいきます。

計画の内容を拡充したもの

分類	項目	ご意見の内容	ご意見に対する考え方
低炭素まちづくり	生活交通の活性化・再生	車優先のまちづくりで公共交通離れが進んでいる。公共交通に対する市民の意識改革が必要と思うので、公共交通について中期実行計画に盛り込んでいただきたい	バスの利用促進イベントやバス乗り方教室、JR宇部線に対するマイレール意識の醸成のための利用促進を行う中で、公共交通に対する関心や意識を高めていくことを推進します。また、宇部市営バスを含む公共交通について、移動に不自由している高齢者や学生等の移動を確保するという目的に、これからのまちづくりのための手段として位置付け、「生活交通の活性化・再生」に中心市街地の活性化の観点も取り入れ、事業を実施していきます。
医療・健康・長寿	総合的な食育の推進	小中学校の食育の推進 家族全員で食事をする割合の目標60%とありますが、低すぎませんか。少なくとも90%以上にしたいと思っています。	中期実行計画での指標を「毎週2回以上自宅において家族全員で食事をする割合（小学校1年生）」とし、目標値を90%と見直しました。中期実行計画の「地域食育活動推進事業」において、目標値に近づくよう、さらに、家庭、保育園・幼稚園・学校等と相互に連携・協力して取り組みます。